

筑波大学附属大塚特別支援学校 代表授業

小学部 生活科 学習指導案

日時	2025 年 2 月 7 日（金）10：15～11：00
対象	小学部 3・4 年 つき組 （男子 4 名 ・ 女子 4 名）
場所	小学部つき組教室
授業者	當眞正太(T1) 田上幸太(T2) 門野あすか(T3) 松下ちひろ(T4)

単元名	かぜをつかってあそぼう！
-----	--------------



〈小学部教育目標〉

- （１）他者と関わりながら、様々な活動に参加し、きまりやマナーを守って生活する。
- （２）基本的生活習慣を身につけ、主体的に活動に取り組む。
- （３）様々な体験を通して習慣や知識を身につけ、「思い」や「願い」をもつ。

学部・年/組	教科等	時数（想定）	実施時期	作成者
小学部つき組3・4年	生活	10時間	1月～2月	當眞

1. 単元名

かぜをつかってあそぼう！

2. 単元の構想

(1)	学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	児童は、2学期の生活科において、「物と重さ」の学習をしている。重い物と軽い物を直接持って比べたり、てんびんを使って比べたりする等、観察や実験に意欲的に取り組むことができた。生活科の本単元では、「風の力の働き」の学習に取り組む。風を感じたり、風で動くおもちゃを作って遊んだりする等、身近な生活に関わる内容や体験的な活動を行うことで、児童が興味・関心をもって取り組める内容である。
(2)	学習活動・教材 (単元・題材観)	本単元は、小学校学習指導要領生活科の「(6)自然や物を使った遊び」に関する内容を扱っている。身近な自然である風を扱い、風の力で動くおもちゃを作り、楽しく遊ぶことを通して、風の力や働きについて知ることをねらいとしている。また、知的障害特別支援学校学習指導要領生活科の「エ:遊び」「シ:ものの仕組みと働き」に関連した内容となっている。風の存在に気付き、風は物を動かす力や働きがあることを知り、作ったおもちゃを風の力で動かしてみる活動を通して、みんなと楽しみながら遊ぼうとする姿を期待している。
(3)	単元の意義・展望 (指導観)	実際の指導においては、校庭の風の様子を感じたり、風に関する絵本の読み聞かせ等を通して、風の様子について知るようにする。また、校庭で風あげをしたり、空気砲で風に見える化したりして体験的に風の力や働きについて学べるようにする。さらに、風の力で動く車を作り、風の強さを変えると物を動かす力も変わることがわかるようにする。尚、教材として使用する風や車は、図画工作科と関連させたり、絵本の読み聞かせは国語科と関連させたりして教科横断的に取り組む。また、児童の実態や興味・関心に応じて個別の目標や手だてを設定し、「評価レベル」に基づいて評価を行う。

3. 単元目標（単元全体に関わる内容）

単元を通して目指す子どもの姿		
風の存在に気付き、風の力で動くおもちゃでみんなと一緒に楽しく遊ぼうとする姿		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く。 【小(6)】【特:エ】【特:シ】	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができる。 【小(6)】【特:エ】【特:シ】	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

4. 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
1	風を感じてみよう	1	・絵本や生活科☆本で、風について知る。*国語科と関連 ・校庭に出て、外の風を感じたり、風で葉っぱが揺れる様子等を観察する。 ・気付いたり、感じたりしたことを発表する。
2	風あげをしよう 風車をまわそう	2	・校庭で風あげをする。どうしたら、風がより舞い上がるかを試してみる。 ・校庭で風車をまわしてみる。また、教室でサーキュレーター等を使ってまわしてみる。 ・気付いたり、感じたりしたことを発表する。*風及び風車は図画工作科で制作
3	空気砲で遊ぼう	1	・段ボール箱に煙を入れて、叩くと煙が出て風の動きが見えることに気付く。 ・空気砲の前に物（紙コップ等）を置き、空気ので物を動かしてみる。 ・活動したことをワークシートにまとめ、発表する。
4	強い風、弱い風	2	・うちわ、空気砲、サーキュレーター、ドライヤー等を使って、強い風、弱い風を感じる。 ・ひもや風車等を手に持ち、風を受けてみる。（風を次第に強くすることでの変化に気付く） ・風を起こす道具を選択し、風を起こしたり、当て方を工夫したりして物を動かしてみる。 ・活動したことをワークシートにまとめ、発表する。
5	風の力で動く車（3/3本時）	3	・風の力で動く車を作る。（どうしたら風を受けて車が進むかを試しながら作る） ・風を起こす道具を選んだり、様々な風の当て方を試したりして車を動かす。 （うちわ、洗剤容器、空気入れ、ミニ扇風機、空気砲等） ・活動したことをワークシートにまとめ、発表する。
6	学習のまとめ	1	・学習を写真や動画等でふりかえる。 ・これまでの学びをワークシートにまとめ、発表する。

5. 単元の評価規準

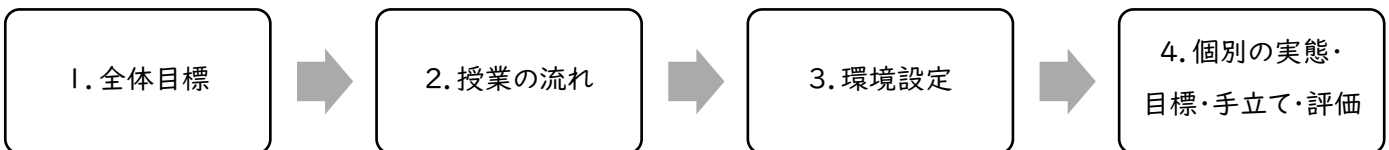
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小(6)自然や物を使った遊び ①身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付いている。	小(6)自然や物を使った遊び ②身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
参考 特別支援学校学習指導要領 エ 遊び(イ) [1段階] ・身の回りの遊びや遊び方について関心をもっている。 [2段階] ・簡単なきまりのある遊びについて知っている。 [3段階] ・きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けている。 シ ものの仕組みと働き(イ) [1段階] ・身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもっている。 [2段階] ・身近にあるものの仕組みや働きについて知っている。 [3段階] ・ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べている。	エ 遊び(ア) [1段階] ・身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとしている。 [2段階] ・身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしている。 [3段階] ・日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとしている。 シ ものの仕組みと働き(ア) [1段階] ・身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしている。 [2段階] ・身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとしている。 [3段階] ・日常生活の中で、ものの仕組みや働きかけが分かり、それらを表現している。	[1段階] ・自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。 [2段階] ・自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとして、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしている。 [3段階] ・自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしていたりしている。

6. 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数：A 概ね妥当 B 要検討()	目標設定：A 概ね妥当 B 要検討()
題材：A 概ね妥当 B 要検討()	教材・環境設定：A 概ね妥当 B 要検討()

II. 本時 (9/10 時間)

※本指導案は、下図の順で表記しています。

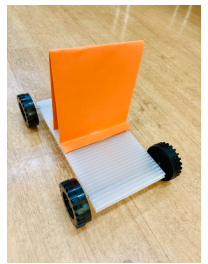


I. 本時の全体目標

資質・能力	内容
知識及び技能	・風を車に当てて、動かすことができる。(①)
思考力、判断力、表現力等	・車を動かす遊びを通して、風を起こす道具を選んだり、様々な風の当て方を試したりする。(②)
学びに向かう力、人間性等	

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、単元全体を通して評価する。

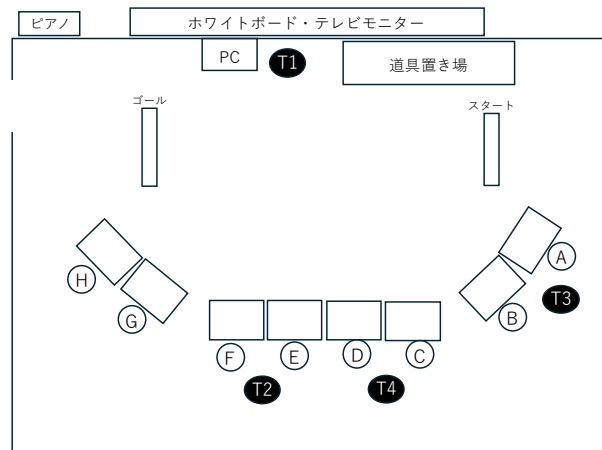
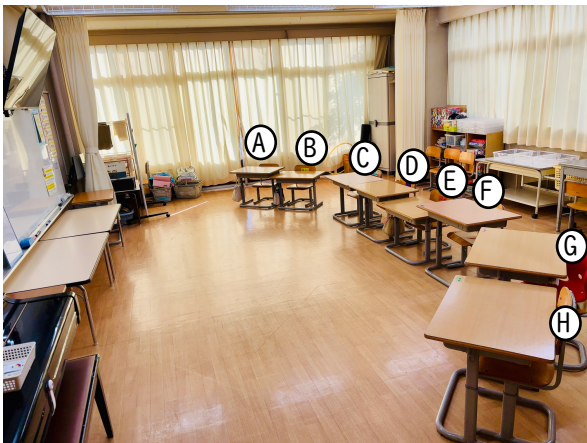
2. 授業の流れ

	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 5分	1. はじめのあいさつをする。 2. これまでの学習をふりかえり、本時の学習について知る。 1次 かぜをかんじてみよう 2次 たこあげをしよう 3次 くうきほうであそぼう 4次 つよいかぜ、よわいかぜ 5次 かぜのちからでうごくくるま 3. 今日のめあてを知る。 「いろいろな どうぐを つかって くるまをゴールさせよう！」	・TI は、日直にはじめのあいさつをするように言葉がけをする。 ・スライドでこれまでの学習をふりかえり、学習内容を思い出せるようにする。 児童の反応例 「そとはかぜがふいていたよ」 「かぜでたこがあがったよ」 「けむりがうごいていたよ」 「かぜをつよくすると、かざぐるまが はやくまわったよ」等 ・TI は、ホワイトボードに「めあて」を記述しておく。	スライド (写真1)たこあげ 
展開 30分	4. 風を車に当てて動かし、ゴールを目指す。 ・風を起こす道具や当て方について知る。 ・それぞれの道具の風を受けて、風の強さや流れを感じる。 ・風を起こす道具を選んだり、風の当て方を変えたりして車を動かす。 ・2、3名のペアで車を動かしてゴールを目指す。 1 番目：AB 児 2 番目：CDE 児 3 番目：FGH 児 ・みんなでやってみよう 5. 選んだ道具や活動したことをワークシートに記入する。 ・教員と話し合いながら、気づき等をワークシートに文章で記入する。(GH 児) ・選択肢から答えを選んで丸を付けたたり、なぞり等で記入したり	・TI は風を起こす道具を紹介する。 (うちわ、洗剤容器、空気入れ、ミニ扇風機等) ・TI は風の当て方のモデル提示をする。 (近付いて当てる、向きを変える、強さを変える等) ・うちわ等の道具を、強弱を変えながら児童に向けて風を起こす。 言葉がけ例 「風を受けてみてどうだった？」 「いろいろな道具を試してみよう」 「近くで風をおこしたり、当て方を変えてみたりしよう」 【知①】【思②】 ・1 番目は T3、TI と一緒に行く。 ・2 番目は T4、T2 がモデルを示す、指差し等の支援をする。 ・3 番目は T2 がモデルを示す、指差し等の支援をし、TI が言葉がけ等の支援をする。 ・全員で自由にやってみる時間を設定する。 【知①】【思②】 ・TI は、ワークシートを配付する。 ・TI は、GH 児に活動してみて、気付いたこと等を書くよう言葉がけし、コメントを記入する。 ・T2 は EF 児、T4 は CD 児に言葉がけをして、選択肢を指差したり、リード文を付	(写真2) 風を起こす道具    うちわ 洗剤容器 空気入れ   ミニ扇風機 空気砲 (写真3) 風の力で動く車  児童に応じたワークシート (3種類)

	する。(DEF 児) ・教員と一緒に、選んだ道具に丸を付ける。(ABC 児)	けたりする等の支援をし、コメントを記入する。 ・T3 は、AB 児と一緒に選択肢に丸を付けたり、コメントを記入したりする。	
まとめ 10分	7. 今日の活動でやってみたことを、ワークシートをもとに発表する。 8. 次回の活動を知る。 ・次回、「かぜをつかってあそぼう」のまとめをすることを知らせる。 9. おわりのあいさつをする。	【知①】【思②】 ・ワークシートをモニターに提示する。 ・児童の取り組んだ様子等を補足して伝えたり、児童が活動を再現したりできるように支援する。 ・発表したことを称賛し、花丸ポイントカードを貼る。 ・スライドで次回の内容を確認して、期待感をもてるようにする。 ・T1 は、日直におわりのあいさつをするように言葉がけをする。	ワークシート スライド 花丸ポイントカード 

3. 環境設定

(1) 教室環境



(2) 提示資料 (抜粋)

めあて

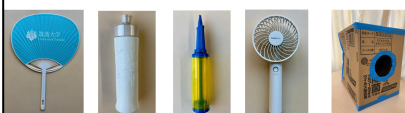
いろいろな どうぐをつかって
くるまをゴールさせよう!



きょうのがくしゅう

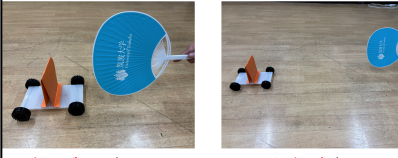
- ① かぜをおこすどうぐや あてかたをしろう
- ② どうぐをえらんで くるまをうごかさう
- ③ ワークシートでふりかえろう
- ④ はっぴようしよう

① かぜをおこすどうぐや あてかたをしろう



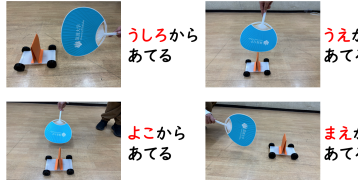
うちわ せんざい くうき みにせん くうきほう
ようき ぶうき

かぜのあてかた①



ちかづいてあてる とおくからあてる

かぜのあてかた②



うしろから うえから
あてる あてる

よこから まえから
あてる あてる

**かぜのちからで くるまをうごこようす
「みにせんぶうき」**



(3) ワークシート

つきぐみ せいかつ
「かぜのちからでうごくくるま」③

なまえ

えらんだどうぐ
 えらんだどうぐを○でかこもう！

やってみてどうだった？
 どうだったかを○でかこもう！

たのしかった
ごーるできた
またやりたい
むずかしかった

せんせいから

A 児、B 児用ワークシート

つきぐみ せいかつ
「かぜのちからでうごくくるま」③

なまえ

えらんだどうぐ
 えらんだどうぐを○でかこもう！

やってみてどうだった？
 どうだったかを○でかこもう！

たのしかった
ごーるできた
またやりたい
むずかしかった

どうだった？

せんせいから

C 児、D 児、E 児、F 児用ワークシート

つきぐみ せいかつ
「かぜのちからでうごくくるま」③

なまえ

えらんだどうぐ
 えらんだどうぐを○でかこもう！

やってみてどうだった？
 どうだったかを○でかこもう！

たのしかった
ゴールできた
またやりたい
むずかしかった

せんせいから

G 児、H 児用ワークシート

4. 個別の実態・目標・手立て・評価

※「評価」…児童の活動において観察された行動に応じて評価レベルを記入する。(補足資料参照)

児童	本時に関わる実態	目標	手立て	評価
3年 児童 A 評価 レベル 2	たこあげや空気砲を使って風を起こし、物が動く様子に感心をもっている。教員の言葉がけや身体援助を受けて活動に参加している。選択肢から好きな内容を選ぶことができる。	①風を車に当てて、動かそうとする。 ②風を起こす道具を1つ選び、車に風を当てようとする。	・教員と一緒に、風を当てて車を動かかし、「動いたね」等の言葉がけをして車が動いたことに気付くようにする。 ・教員と一緒に、風を当てて車を動かせるようにする。	
4年 児童 B 評価 レベル 2	活動に参加することを楽しんでいる。「たこ」「かぜ」と発語する等、関心をもって授業に参加している。教員の言葉がけや身体援助を受けながら、やりたいう活動を目指し等で選ぶことができる。	①風を車に当てて、前に動かそうとする。 ②風を起こす道具を1つ選び、車に風を当てようとする。	・教員と一緒に、風を当てて車を動かかし、「前に動いたね」等の言葉がけをして車が動いたことに気付くようにする。 ・教員と一緒に、風を当てて車を動かせるようにする。	
4年 児童 C 評価 レベル 2	友達と一緒に活動することを楽しんでいる。周囲が騒がしい時や暑い時に大きな声を出すことがある。活動への見通しがもてるように教員が言葉がけをしたり、一緒に活動したりする等の支援が必要である。	①風を車に当てて、前に動かそうとする。 ②風を起こす道具を選び、車に風を当てて動かそうとする。	・風を当てて車を動かす動作を部分支援しながら、「前に動いたね」等の言葉がけをして車の動きに気付くようにする。 ・教員と一緒に、風を起こす道具を選び、風を当てて車を動かすように促す。	
3年 児童 D 評価 レベル 3	たこあげや空気砲など、これまでの活動に意欲的に取り組んでいる。言葉が不明瞭だが、発語と身振りを交えて表現することができ。教員の指示を聞いて行動することができ。	①風を車に当てて、動かすことができる。 ②風を起こす道具を選び、風の当て方を試して車を動かそうとする。	・車を指差しして注目できるようにしたり、「車が動いたね」等の言葉がけをしたりして、車を動かせることに気付けるようにする。 ・風を起こす道具を3つ程の選択肢から選ぶように指差しをしたり、風の当て方のモデルを示したりする。	

4 年 児童 E 評価 レベル 3	活動に意欲的に参加することができ、発表の順番にこだわったり、注目要求行動がみられる。教員の指示を聞いて、見通しをもって活動に参加することができている。	①風を車に当てて、動かすことができる。 ②風を起こす道具をいくつか選び、風の当て方を試して車を動かそうとする。	・車を指差しして注目できるようにしたり、「車が動いたね」等の言葉がけをしたりして、車を動かせることに気付けるようにする。 ・取り組む姿勢を称賛することで意欲を高める。 ・風を起こす道具を選択するよう指差しをしたり、風の当て方のモデルを示したりして、取り組みを促していく。
4 年 児童 F 評価 レベル 3	プラレールや車など、興味のあふ活動に意欲的に参加する。興味のない活動には注目しようとし、様子が見られるが、事前に説明し、活動の見通しがあることと意欲的に参加できる。	①車に近付きながら風を当てて、車を動かすことができる。 ②風を起こす道具をいくつか選んだり、風の当て方を変えたりして車を動かすことができる。	・風を当てる場所を指差しで示したり、近付きながら風を当ててみるように言葉がけをしたりする。 ・風を起こす道具を選択するよう言葉がけしたり、風の当て方や、風の強さの変え方のモデルを示したりする。
3 年 児童 G 評価 レベル 3	教員や友達とのやり取りを楽しんでおり、思ったことや考えたことを発言する。活動に飽きてしまふと注意が逸れることがあるが、言葉がけや教材提示等の工夫が必要である。	①車に近付きながら風を当てて、車を前に動かすことができる。 ②風を起こす道具をいくつか選んだり、風の当て方を変えたりして、車を前に動かすことができる。	・風を当てる場所を指差しで示したり、近付きながら風を当てて、前に動かしてみよう言葉がけをしたりする。 ・風を起こす道具をいくつか選択するよう言葉がけしたり、風の当て方や、風の強さの変え方のモデルを示したりする。
3 年 児童 H 評価 レベル 4	活動のねらいに対して見通しをもって参加することができている。勝敗にこだわったり、人目を気にして落ち着かなかったりする様子が見られる。前に出て、友達のお手本になることに喜びを感じている。	①風の力の強弱を変えたり、当て方を工夫したりして、車を動かすことができる。 ②風を起こす道具を複数選択したり、風の当て方や強弱を変えたりして、車を動かすことができる。	・風の強弱や当て方を変えたりする等の言葉がけをして、車の動きの違いがわかるようにする。 ・風を起こす道具や風の当て方、強弱など、必要に応じて言葉がけを行い、新たな視点に気付けるようにする。

小学部 生活科 学習指導案 補足資料

評価についてのおよその目安

評価 レベル	1	2	3	4	5
	評価規準に迫る様子が見られない	1段階の目標を達成したと想定する姿	2段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を越えたと想定する姿
観察された姿	・行おうとしない ・機会なし	・視線を向ける ・行おうとする ・教員と一緒にいる(身体ガイダンス等)	・教員を模倣して言葉や動作で表現する ・選択肢から選ぶ ・教員に依頼して一緒に行う	・教員の促し(問いかけやジェスチャー等)を受けて行う ・選択肢を手がかりに自分の言葉で答える	・自発的に取り組む ・想起して答える ・言葉や動作で具体的に表現する
児童の目標とするレベル		A児 B児 C児	D児 E児 F児 G児	H児	

○風を車に当てて、動かすことができる。【知①】

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	教員と一緒に風を起こし、車を動かそうとしている。	教員を模倣して風を起こし、車を動かしている。	教員の言葉かけを聞いて風を起こし、車を動かしている。	自発的に風を起こし、車を動かしている。

○車を動かす遊びを通して、風を起こす道具を選んだり、様々な風の当て方を試したりする。【思②】

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	教員と一緒に道具を選び、車に風を当てようとしている。	教員を模倣して道具を選び、様々な風の当て方を試して車を動かしている。	教員の言葉かけを聞いて道具を選び、様々な風の当て方を試して車を動かしている。	自発的に道具を選び、様々な風の当て方を試して車を動かしている。